市民の声

市当局や議会、または個人同士の攻撃にならぬご意見をおよせ下さい。

締切り＝毎月二十日
宛先き＝市役所内広報係

平野改装問題

香長平野に関する所見は別稿で述べたが、更に根本的な問題点がある。

昔からの平野増成開拓が単に用水面にのみ心を奪われ、旧物部川自然分流のすべてを強引不合理に工作して用水路に活用し、或は局部廃川化が、平野の所々で見受けられる。これは運河、至上主義からきた悪化と相俟つて、野面各所の地区的氾濫現象を発生し、年の経過と共に著しくなつてきた。

平野の大観的不合理状態をそのままにして見送つておくなら、今後必然的に進む人工輪中氾濫化の悩みを憤訴するようになろう。

新中学校位置の選定に当つても既にこの種氾濫が問題に上つた。

香長平野の浪費性と不生産性とは現平野の内部に仕組まれている。これには目もくれず、ひた向きに巨額の金を次々と排水工事に注ぎこんできた今までの指導構想や局地氾濫の声は賢明であつたであろうか。

香長平野が区画整理を含めた改装的綜合開発の緊迫状態下にあることは、開発当路者も平野民お互も真剣に再検討すべきではあるまいか。

（浜田生）

自然には勝てない

水が低きに流れるのはあたり前で、これを高く流すにはポンプが必要であり。流れを変へるには堤が必要である。

堤はいつも手を加へていないといつかは必ずこわれて水は低き方へ流れて行く。

私が二・四Dで除草したときはあまり早かつたので附近の人々に笑われた—あれで米がとれるかと、その当時はみな四つんばいになつて手で除草していた。

今では笑つた人が二・四Dを使つている。

三十萬円の耕耘機を買うよりは、これを貯金しておいて、その利子で他人にやつてもらつたがはるかによいが、やはり耕耘機はどしどし農家に入つて行く。

オートバイがどんどん農村に、都会に売れるのは歩くより楽であるからだ。これらはみな人間が少しでも楽に暮らしたいからである。

人間は誰でもうまいものを食べ、きれいな妻を持ち、楽な仕事をし、立派な家に住み、長生きしたいと思うのは自然のりであるから、これにさからうのは、なかなかむづかしい。

経済でもそうである。安くて良い品はどしどし世の中にひろがつて行く。

密造の酒が世の中から消えないのは、人間の酒を呑みたいのと安価な点がむすびついているからである。

売春禁止法ができても、後をたゝないのは、性は人間の本能であるから、なかなかむづかしい。

紳士の国を宣伝する英国ですらロンドンのハイドパークへ行くと、夜十時を過ぎれば夜の女がいくらでもいるらしい。

土佐の早場米が品質が悪いからと安値が予想されるがこれも食糧が豊かになれば悪いものは人が相手にしない自然の理である。

これを早場米として特別の法のもとに今まで農民が保護されてきたが、先に書いた水に対する堤のようなものであるから永久には続かない。

このごろ田のあるところを通ると、ヒエや雑草をひいて道へ捨ててあるのをよくみかける。

お百姓たちに考えてもらいたいことは、道路はおおやけのものということだ。

なんの気なしにやつているかも知れないが、通行人にとつては思いのほかめいわくだ。

"自分さえよければ"という考えを捨ててもらいたい。

（一通勤者）

お百姓へ

ない。

だが、この法がなければ、われわれ農民の死活問題である。

農民自身も、自然の理にかなつた方向に進まねばならないし、為政者も自然の理にかなつた方向で生きるように指導していただきたい。

（鉄　空）

主張　クロンボは考えもの

紫外線は人間の皮膚を通してビタミンDをつくり、血のめぐりをよくし、組織の働きを活発にさせて病気をなおす役割りを演じる。

紫外線が皮膚にあたると皮下のメラニンという色素が黒くなつて、余分の紫外線が体の内部にはいるのを防ぎ内部の器管をいためないように働いてくれる。

また太陽灯は骨や皮膚の病気をはじめ、脱毛症、血圧高進症、神経性の病気、気管支カタルなど進行性の結核を除くいろいろの病気に利用されている。（体の弱い人は日光浴を一度にやると害があるから、星先から始め全身に広げていく）

ところで、こんなに役立つ紫外線も度をすぎると害がある。

たとえば雪の中で強い紫外線を目に受けると結膜、網膜がおかされ、めくらになることもある。

強い日光が繰り返して皮膚を焼くと赤くなり、水泡ができて皮がむけることは経験ずみの人が多いようだ。

それをかまわず陽に焼けていると皮膚のビタミンB_2がこわされてタダレができるほか、脳までおかされ日射病になることがある。

それに潜伏性結核の病気を呼びおこす原因ともなる。

毎年各地で行なわれるクロンボ競争も、以上のようなことを考えると考える必要がありはしないか。

黒いのが、必ずしも健康であるとはいえないから、ことしは太陽をほどほどにあびるようにしてほしい。

農業経営講習会

市、市内各農協、同農事研究会、風受農協会など主催の「農業経営講習会」は、次の日程で行なわれる。

七月二十二日（午前十時から）岩地区公民館、二十三日（同）日章公民館、二十三日（午後八時から）三和公民館、二十四日（午前十時から）大篠公民館

講師＝兵庫大講師、全国受農会副会長近藤正氏

借入れ手続きを早く

造林資金の利用について

本年度の造林資金はワクが不足する見込みだから、借入れ希望者は九月末までに手続きしなくてはならない。

貸し付け条件次のとおり。

〔補助造林〕造林補助金を受けた場合—事業費から補助金を差し引いた残額の八割まで借入れできる。

利率六分五厘

据え置き期間十五年

〔非補助造林〕補助金を受けない植栽、下刈り、除伐枝打ち、施肥など—事業費の八割まで借れる。

利率四分五厘、据え置き期間二十年、償還期限十年

なお手続きその他は近くの森林組合、林業改良指導員、森林組合連合会、県林産課などに問い合わせるとよい。

曲り角にきた米作

筆者が前号に表記の題材で意見を書いたところ、早速普及所に勤めている一友人から忠告をうけた。

土佐は台風県であるからなるべく台風襲来以前に収穫出来る早生稲を栽培すべきであるというのである。

すなはち前号での筆者が香長平野での稲作は早生からだんだんと中生の優良種に移行するのではあるまいかということに対する反論である。

台風禍のにがい経験は農民の誰もが幾度かなめていることであり、筆者とてもそのことは考えぬではないがしかし時の流れ、米の統制撤廃は早晩不可避であらうが、その時になつて品種によつて値段に格差が生じ、更に劣等米は売るのに骨が折れるということになつたらある程度中生種に切り替えるより仕方がないではないか？との筆者の疑問に対して、かれはいうのである。

中生の農林二十二号系統のものと余り品質のちがわない早生米が近い将来必ず出来るであらうし、いなすでに出来つつあるというのである。

筆者は三年がかりで爆破、撤去されもとの美田としてよみがえることとなつた。

面積は約八アール。

△農繁期共同炊事場はことしは数ケ所ふえ、南国農改普及所では万全を期するため、本月上旬全部の調査を終つた。

△三十五年度の農山村建設事業により海岸地帯の漁業施設が強化される。

農、林業について知りたいと思われることがあれば、市役所内の広報委員会へお知らせ下さい。

委員会では農業改良普及所、県林業指導所、県農業試験場などで調べこの欄で説明し、ます。

なお締め切りは毎月二十日、連絡の必要があるかもわかりませんから、住所と氏名を忘れないようねがいます。

ヒエの共同防除

このごろ野ヒエの発生が多くなり、防除のためには反当り二、三人役もかかつている。

農家が協力して防除に当たれば、数年のうちになくなり、豊作が期待される。

防除方法としては、次のようなものがあげられている。

○稲の刈り取り前までに完全に抜き取る。（ヒエの開花七日以内に抜き取るのが理想的）

○ヒエをまくような毎年の繰り返しをやめる。（アゼ、川、道などに捨てることをやめ、堆肥にし、植え付けヒエの根絶をはかる。）

ブドウみのる

夏の味覚の王座—ブドウのシーズンがきた。市内では十市を中心に、長岡、大篠がこれに次ぎ、その他の地区でも小規模に栽培されている。

病害の防除も徹底して作柄もよく、値段も落ちつき、買いやすくなつてきた……。

これからの病害虫防除

水稲

市の水稲病害虫防除本部の指令による一斉共同防除は上、中旬へかけ行なわれているが、同本部ではこんごの対策を次のように指示している。

〔穂首イモチ〕〔紋枯れ病〕

これまでの葉イモチと違つて、これからは穂首とか、一茎にきて収量に直接影響するため、次の防除方法をとる。

薬剤は有機水銀剤とする。

撒布の適当な時期は穂の出る直前に一回。穂がかたむき始めたころ一回。

撒布量は十アール（一反歩）に三キロとし、ムラのないように撒布する。

〔紋枯れ病〕

病気が止葉にふえ始めているからいままで防除してないところは、すぐ防除しなくてはならない。

薬剤はモンゼット、アソジン粉剤を十アール当り三キロとし株元を狙つてやる。

なお最近防除されたところで病気の少ないところは、穂が出そろつてからセレジット粉剤を使うと効果がある。

九億円を生産

鈴江農機拡張工事

後免町西町の鈴江農機製作所は最近、第二期拡張工事を完成した。

総工費は一億一千万円で、このうち建物（鉄骨四千八百七十平方メートル）に約六千万円を当てた。

これによつて生産品の精度、能率は一気に引き上げられ、これまでの年産五千五百台、六億円は八千台、九億一千五百万円にハネ上がる。

なお近く着手する第三期工事は一億二千万円が計上されており、耕耘機専門メーカーとしての地盤を固める。

（新設工作機械の一部）

旧軍施設も美田に

前浜にある旧海軍航空隊の飛行機エン体八基のうちのもつとも大きい軽爆撃用の

野に住む善良で勤勉な農民達の逞しい生活意欲が決定づけるであろう。

（十市・梨夫）

県農試に参観日

県農業試験場は経営技術の向上と米質の改善をしてもらおうと、早稲の立毛期に当たる十八—二十日までの三日間全施設と圃場を開放し参観日とした。

これは六十年の歴史を持つ同場としても初めてのことで、研究施設の新しいゆき方として注目されている。